

小松商工会議所 80周年記念座談会

北陸新幹線小松駅開業と

小松の新しいかたち

〔座談会参加者〕

小松商工会議所会頭／西 正次

コマツ粟津工場 工場長／保川 高司

公立小松大学 学長／山本 博

小松商工会議所 青年部 顧問／小野 知一郎

小松商工会議所 青年部 女性活躍推進部会長／梶 あい子

〔ファシリテーター〕

飯田 一之氏(株式会社日本政策投資銀行 北陸支店 企画調査課 課長)

※小松商工会議所にて2023年2月9日開催





北陸新幹線小松駅開業と 小松の新しいかたち

1942年に設立され、小松の産業と経済の基盤づくりを支えてきた小松商工会議所は、2022年、創立80周年を迎えました。2024年春には北陸新幹線小松駅が開業し、小松空港との連携もあわせて、観光・ビジネス両面からの経済波及効果が期待されています。小松の歴史が変わる100年に1度のターニングポイントにある今、地域のものづくり、ことづくり、ひとづくりに関わるメンバーが、これからの小松像を語り合いました。

「ファッションリーダー」飯田 一之氏（株式会社日本政策投資銀行 北陸支店 企画調査課 課長）

交流人口拡大に向けた 期待と課題

私は昨年4月に株式会社日本政策投資銀行 北陸支店に着任しました。小松にはプライベートでも足を運んでいます。訪れるたびに新しい魅力を発見しています。

この小松に来春、いよいよ新幹線がやってきます。新幹線駅と空港がこれほど近接している都市は世界でも稀です。80年にわたり地域経済を牽引してきた小松商工会議所には、北陸新幹線小松駅開業に伴い新たな商圏を形成するとともに、交流人口の拡大を捉えた地域づくりにも役割を果たすことが期待されます。まず、現在、どんな課題があり、どのように取り組んでいくのか、みなさんの意見を伺いたいと思います。

西 交通の結節点である小松にとって、

北陸新幹線小松駅開業は時代の変わり目になります。ソウル便、上海便、台北便、香港便が就航し国際化を進めている小松空港と合わせて、交流人口は今まで以上に増える可能性があります。

その一方で、多くの人が課題に感じているのは、受け皿となるサービスや関連産業がまだ整っていないということです。小松市に限らず南加賀全体に魅力的な観光スポットが点在していますが、訪れるための交通手段がありません。駅と空港を結ぶA1自動運転バス構想を含め、二次交通の整備を早急に進めるべきだと日頃から考えています。

梶 当社は従業員10数名の小さな日本料理屋ですが、西会頭がおっしゃる受け皿のひとつになろうと、「こまつ女将小珠の和」を立ち上げました。おもてなしのあり方、市内外でプロモ-

シオン活動のありかたを共に模索しています。

先日は品川駅でのPR活動のお手伝いをさせていただき、あわせて新幹線沿線である南加賀地域の認知度調査も行わせていただきました。こちらが想定していた以上にみなさん小松に関する知識が少なかったり、間違った理解もあったりと、ギャップを痛感しました。受け皿を整えると同時に、小松を知ってもらう機会をつくらうと、いろいろと試行錯誤しているところです。

山本 私も妻も小松生まれですが、転勤で各地を転々とし、小松大学の開学とともに40数年ぶりに小松市民に戻りました。今改めて、小松の魅力を実感しています。

小松は祭りのまち、遊びの文化のまちです。市中心部の主要交差点を空から見ると、角の家が面取りされていて八角形になっています。これは歌舞伎の舞台の曳山やお神輿を通すためのつくりです。実はスペインのバルセロナも同様で、いたるところに汽車を通

そうと設計されたため交差点が八角形をしています。そうした目で見ると、

実は小松とバルセロナは共通点が多い。いずれも山も海も近く、芸術が盛ん。小松には那谷寺があり、バルセロナにはモンセラットがあります。新幹線開通とともに小松は日本のバルセロナになるんだぞと、学生たちに言っています。

——小松が日本のバルセロナという視点は新鮮です。スポーツ文化が根づいていることも共通していますね。

小松には重層的な文化があります。歴史を振り返ると、町人文化を背景にした曳山子供歌舞伎のほか、安宅に寄港した北前船、明治維新後の経済を支えた鉱山など、海、山、街に多様な文化が広がっています。

西 地域資源には本当に恵まれています。小松駅周辺では、科学と交流のまちの拠点「サイエンスヒルズこまつ」があり、本格的な歌舞伎を上演できるホールとして「こまつ芸術劇場つらら（現 團十郎芸術劇場つらら）」があります。1972年から整備が始まった

木場潟公園は、長い時間をかけて現在のようになり、健康づくりができる場所になりました。加えて今、北國銀行の女子ハンドボールチームハニービーの本拠地兼音楽向けの民設民営アリーナを小松空港横に建設する計画も

あります。これらの地域資源をどう活かすか。梶さんがおっしゃったように、小松はこんな魅力があるところですよという情報発信も必要ですし、実際に訪れたときに楽しんでもらえるよう、インフラやソフトを充実させることも重要です。

山本 西会頭がおっしゃるように、木場潟は素晴らしい環境です。新幹線のルートは、車窓から木場潟越しの白山や加賀平野の田園風景を眺められるように決められたそうです。白山は独り奮え^{そむ}周りに雲集^{くも}つ。私は大学の入学式で「自分の心の中に白山を持って」と学生に話しています。それは自分の人生において大きな目標を持つことであり、学生時代を過ごす小松のシンボルを心に焼き付けるということでもあります。

——新幹線の開業をゴールとするのではなく、その先を見据えて、新幹線を活かしたまちづくり、二次交通の整備を続けていくことで、開業効果を持続的に享受することができます。

グローバルな潮流とローカルな視点で小松経済の地力を高める

——観光以外のビジネスでの課題はど



コマツ粟津工場 工場長
保川 高司

うでしょうか。世界を見渡すと、脱炭素化の流れとロシアによるウクライナ侵攻の影響下での資源・エネルギー価格の高騰があり、デジタルトランスフォーメーション（DX）、グリーントランスフォーメーション（GX）が加速するなど、経済や産業構造は大きく変貌を遂げつつあります。

保川 みなさんご存知のようにサプライチェーンはグローバル化が進んでいますが、コロナ禍でその寸断が見られ、調達や生産、物流などの各機能で事業継続が難しくなる事象が発生しました。今後も同様の事態が発生することが想定されますから、我々にはサプライチェーン全体を評価し、DXからビジネスの変革へとつなげることが求められています。

一方でローカルな視点では、コマツ栗津工場は地域の優秀な人材の労働力や、協力企業からの調達に支えられているという点を強調したいです。当社として人をどう育てるか、賃金をどう上げるか、いかに安定した生産を行う



小松商工会議所 会頭
西 正次

かが、地域全体の活性化につながるという自覚と責任を持って取り組んでいきます。

小野 専門家はいずれAIが人間の能力や知性を超えるシンギュラリティが到来すると指摘していますが、それを待たずとも雇用のあり方や労働環境は変化しています。当社のような中小企業としても、テクノロジをどう活用していくべきか常に考えています。

それ以上に大きいのが人口減少の問題です。ある調査によれば、2040年までに国内の896の市区町村が消滅するとされています。その中には隣りの加賀市も入っていますから、私たちとしても他人事ではありません。

労働人口減少を 働き方改革の推進や 人材活用の柔軟性を 高めるチャンスに

——小野さんがおっしゃるように人口減少による労働力不足の課題は深刻で、女性活躍と高齢者雇用への期待が高まっています。石川県は女性の労働率が高いエリアです。先日、岸田首相が子育て支援の現場視察でコマツを訪れ、「コマツモデルを全国に」と高く評価しています。

保川 コマツ栗津工場は、全社平均より女性比率、女性管理職比率が高くなっています。育児サポートについては、法定を上回る育児休業制度を設けていますし、年次有給休暇とは別に、出産や育児などのために利用できる休暇制度があります。男性の育児取得の事例も年々増えています。

ただ、こうしたことは自社の職場環境だけ改善しても不十分です。生産活動だけでなく、従業員の育児サポートの制度についても、協力企業と一緒に考え、取り組んでいきたいと考えています。

梶 コマツという大企業が働き方改革を率先して推進していることで、小松のまちに変化が起きていることを実感しています。

子どもが通う小学校で保護者参観の行事があった際、多くのお父様の姿、そしてご夫婦での参観を見かけました。聞けばコマツに勤めており、子どもの行事参加の際にお休みがとりやすい環境だとのことでした。素晴らしいことだなあと感じています。波及効果もあり、つい先日は、市内のクリニックで「〇月〇日は学校行事にともない看護師が少ないため、ご来院の皆様へご迷惑をおかけすることが予想されます」という張り紙がありました。これは、女性が育児と仕事を両立すること

への理解が、小松全体に浸透しているからだと思います。

西 弊社丸西組では、女性に加えてシニアの活躍も後押ししています。建設業は働き方改革について猶予期間が設定されている業界ですが、だからといって立ち止まっているわけにはいきません。

女性の活躍推進については、自分で勤務時間帯を決められるしくみ、育児を経て職場復帰しやすいしくみをつくり、女性が管理職へとキャリアアップして長く働ける職場環境を整えています。結果として、建設業界の課題である離職率が改善され、若手が定着するようになりました。

シニアは、若手への技術伝承の主役となっています。70歳過ぎの熟練の方に指導役として来てもらい、入社5～6年の社員をマンツーマンで教育してもらっています。

——働く女性の代表として、梶さんの実体験もぜひ伺わせてください。

梶 私は以前は東京の日本料理店で働いていましたが、妊娠7か月で退職しました。勤務時間は夜が中心ですし、誰かに子どもを見てもらうという発想は、当時の私は持てませんでした。日本、特に地方では、母親が幼い子どもを預けて働くことに対して周囲からネガティブな声が寄せられることがあり

ますし、本人もうしろめたさを感じることもあります。でもそれは違います。社会も変わるべきですし、女性自身も意識を変えないといけないと思います。

結婚・出産などライフスタイルが変化すると、女性は「自分は重要な仕事を任せてもらえない」と思うものです。そこを会社から「こんな働き方ができるし、こんなふうにキャリアアップしてほしい」と明確に伝えると、その後の仕事に対するモチベーションが変わります。これは経営者のみなさんにぜひお願いしたいことです。

北陸新幹線小松駅開業を 地域活性化と シビックプライドの 醸成につなごう

——新幹線開業はポジティブなターニングポイントではありますが、沿線都市の強弱が明確になることもあります。小松から大都市圏へと若者が流出するのではなく、逆に小松に呼び入れたいこうというときに、何ができるでしょうか。

小野 2024年3月、北陸新幹線小松駅が開業する絶好のタイミングで、日本商工会議所青年部の全国大会が小松市を主会場に開催されます。全国大



小松商工会議所 青年部
女性活躍推進部会長

梶 あい子

会が県内で開催されるのは初めてで、3〜4日の会期で全国の商工会議所青年部員ら6000人の参加を見込んでいます。小松の魅力为全国に発信する絶好の機会ですし、地域の賑わい創出にも貢献できます。

小松商工会議所青年部は開催地の団体として、万全の受け入れと、自然歴史、文化など地域の宝ものを活かした演出に取り組みます。地域住民との交流の機会も設けますし、参加者の感性や情緒に訴えかけるアートを媒介に人と人、人と地域を結びつけるコミュニケーションをつくらうと、今いろいろと企画しているところです。

西 感性に訴えかけるという面では、今一度小松の自然や歴史文化に目を向けて、掘り起こす取り組みがあってもいいのではないのでしょうか。近年は石文化が注目されていますが、その他にも、江戸から明治にかけての安宅湊北前船往來による生活文化、小松城に隠居した加賀藩三代藩主・前田利常のまちづくり、小松に二度訪れた松尾芭蕉

の足跡、自衛隊と民間航空との共同使用のもと発展を続けている小松空港、コマツ発祥の歴史とものづくり、ひとづくりの精神など、小松には興味深いストーリーがいくつもあります。これらをたとえば「小松ものがたり」としてまとめ、内外に発信する取り組みがあってもいいかもしれません。

山本 小松大学は開学以来、全国から学生を受け入れています。若者を引き寄せ、引き留めることも地域の大学の大切な役割だと考えています。そこでは良質な雇用を提供するだけでなく、西会頭がおっしゃるように、地域の魅力を理解してもらうことが重要です。

——先人のレガシー、歴史に光を当てた取り組みは、人づくりやまちづくり、シビックプライドの醸成につながります。最近では地域に根付いた産業や企業を見学してもらう「産業観光」もキーワードになっています。

保川 コマツは2021年に創立100周年を迎えましたが、その記念として、小松駅の目の前の「こまつの本館」をリニューアルしました。従来からランドマークとして設置している超大型ダンプロトラックの隣に、新たに超大型油圧ショベルを設置し、100年の歴史を振り返る歴史館、建設機械について学ぶキッズ館などの展示棟を整備しました。一般の方に楽しんでもら

うだけでなく、コマツ粟津工場、コマツ金沢工場の見学とセットで、当社の海外のお客様を案内することも増えています。

当社は観光産業に直接関わっているわけではありませんが、今後は地域と連携して、ビジネスのお客様に創業の地である小松に親しんでいただく取り組みがあってもいいのではと思っています。

梶 小松商工会議所青年部で昨年、新幹線の駅舎工事の見学会を行ったのですが、駅のホームに立った時に目に飛び込んできたのが、白山とこまつの柱でした。その光景を見たとき、鳥肌が立つほど感動しました。参加した市民のみなさんからも「小松を誇らしく思った」というような声が聞こえてきました。

訪れる人をもてなす前に、まずは小松に暮らす人がまちに誇りを持ってほしいと思います。「何もないまちだから」と謙遜するのではなく、自信を持って発信してほしい。それが結果的に人を呼び込み、引き留めることにつながります。そういう意識を醸成していくのも青年部の役割だと思っています。

——昨年10月に弊行が実施したアンケート調査^{*}では、金沢や富山にて、新幹線開業により多くの観光客が訪れるだけでなく、地元民に地域への誇りや

愛着・シビックプライドが醸成されたことが示されています。

小松から第二の コマツを生み出せ

——世界のコマツも最初はベンチャーでした。小松から第二、第三のコマツを生み出すためには、何が必要でしょうか。

小野 「起業」は新しい産業や雇用を生み出すとともに、経済成長をもたらす大きな原動力となります。小松を含め、日本全体で起業をいかに増やすかが重要だと思っています。特にこれからの社会を支えていく若者世代が起業しやすい環境をつくっていくことです。

日本の若者の起業の現状をみると、主要先進国の中でみても消極的な姿勢が目立ちます。起業よりも安定を求める傾向が強いです。アントレプレナーシップを支援する体制を、小松商工会議所としてもより強化していくべきだ



小松商工会議所 青年部 顧問
小野 知一郎

と思います。

山本 小松大学は開学初年度にシリコンバレーにオフィスを設置し、2年目から「産学合同シリコンバレー研修」を実施しています。現地の起業家精神にふれ、挑戦を応援する風土を知ること、参加者は一種のカルチャーショックを受けます。こうした機会を最大限に活用して、失敗を恐れずチャレンジする起業家マインドを養ってほしいですね。

西 公立小松大学が実施されているシリコンバレー研修に、地元企業からの多くの参加があることを期待しています。

——地域経済では雇用において中小企業の果たす役割が大きいです。起業に限らず、中小企業が新たな雇用を創出することができれば、若者の都市部への流出が抑えられ、地域の活性化につながります。

西 日本商工会議所でも、成長産業への労働移動を実現するためにリカレント教育やリスキリングに力を入れています。

リスキリングは社内のDXへの適応や新規事業の立ち上げにも必要です。変化できる者が生き残る、という言葉がありますが、これはまさに今やらなければ、数年後は手遅れかもしれませぬ。小松商工会議所としても、会員企業の取り組みや新たな分野への挑戦を

応援しています。

小野 地域特性に応じたローカルイノベーションのしくみをつくるのが大事だと思います。起業といっても事業内容は多様ですが、ローカルという視点に立てば、持続可能な小松であることが大前提になります。小松という地域とともに持続的に生成発展するローカルビジネスが生まれることを期待します。

パートナーシップで これまでにな 新しい価値を生み出す

——小松には大企業から中小企業まで、さまざまな企業が集積しています。パートナーシップによるイノベーションの可能性についてはいかがでしょうか。

山本 小松大学では文部科学省・厚生労働省・小松市・小松商工会議所のご支援を得て、「ものづくり人材スキルアッププログラム」として社会人教育に力をいれています。これはものづくり企業に在籍する若手リーダーを対象に、現場の総合的な管理手法、現場の改善を行う能力の向上を目指すもので、私自身も今期、受講生として参加しています。一緒に学ぶ仲間が30代〜40代が中心で、みな午前中に熱心に授業を受け、午後からそれぞれの会社に



公立小松大学 学長
山本 博

出社します。個人としてスキルアップするだけでなく、横のつながりが生まれ、将来のイノベーションの基盤になるかもしれません。

——外の視点やアイデアを取り込むことで新たな商品やサービスが生まれるということも、今後増えるのではないのでしょうか。

梶 「九谷セラミック・ラボラトリー」は、その先駆的な事例だと思います。小松が誇る石文化と九谷焼について紹介する複合施設ですが、事務局の3名は県外出身者です。外の視点を持ちながらしっかりと産地に入り込み、九谷焼の窯元や職人と外部のクリエイターをつないで、オリジナルブランドを立ち上げました。

私自身も外部の人のアイデアや考え方にふれて気づくことが多いです。日常の業務に追われていては、考えるきっかけや考える時間を持つことがなかなかありません。

小野 青年部の中期ビジョンには、個々の挑戦をみんなで応援するという互

助の考え方や、会員同士のシナジーによる事業の活発化の方向性を盛り込んでいます。

視野を広げると、地域の風土自体もオープンになってきたと思います。自分がかつどの頃、父の世代は「隣の市には負けない」というような、ちょっと偏ったライバル心がありました。今はそうした枠を取り払って、みんなと一緒にやってみよう、コラボレーションしようという気運があります。よそ者、馬鹿者、若者、そして小松というならば傾奇者を歓迎する土壌も、少しずつ生まれていると感じています。

——複数の企業が協力しあい、補完しあっている新しいビジネスを生み出すエコシステムの構築が、新幹線開業を機に加速するかもしれません。成功事例がひとつ生まれると、追従する事例が続く、好循環が生まれます。

保川 小さな成功例かもしれませんが、コマツ栗津工場では、石川県と地元の森林組合と連携し、山林の未利用材をチップ化してバイオマスエネルギーとして利用するスキームを構築しています。チップ生産用の機械は、当社の協力会社が新たに設計・開発したドラム式チップパーを採用しました。森林組合にとっては新たな収入になり、当社にとってはエネルギーコス

トとCO₂排出量の両方が削減できる、Win-Winの持続的な取り組みが実現できています。それまで接点のなかった業界、人と連携することで、新たな価値が生まれた好事例だと自負しています。

——地域課題の解決と企業の経済活動を面立させた好例ですね。

保川 コマツはこの地で、地域の協力企業とのパートナーシップで生産活動を行っています。協力企業の持続的な成長があって、当社の事業を持続的な成長がある。おこがましいかもしれませんが、その先に持続可能な小松があるというふうに捉えています。

山本 地方の創生には産・官・学・金・民・言の連携が欠かせません。最近は大学が地域に入り込み、一緒に課題を解決していく「オープンチームサイエンス」という枠組みが注目されていますが、パートナーシップの輪の中に、本学もぜひ加えていただきたいと思います。

躍動する未来へ、 商工会議所が進むべき道、 小松商工会議所の使命

——パートナーシップの重要性と可能性が再確認できたところで、小松商工

会議所の舵を取る西会頭と、これからの小松を担う小野さんと梶さんに、今後、小松商工会議所が目指していくこと、そして小松のありたい姿を語っていただきたいと思います。

西 今日はみなさんより多様な角度からの話しを聞くことができ、新鮮な気づきがたくさんありました。地方創生の時代にあって、小松から日本を変えていくことができる、そんな可能性を感じました。

小松商工会議所としては、理想のあるべき姿を常に思い描きつつ、地道な活動を積み重ねて、地域ぐるみで子育てを応援するまち、女性活躍をはじめとしたダイバーシティ経営を実践するまち、パートナーシップでイノベーションを生み出すまちとして、全国に小松モデルを発信していきたいと考えています。

小野 小松のありたい姿としては、進学などでいったん地元を離れた子どもたちが、いかに「小松に必ず帰って来たい！」と思える地域づくりを私たちがで

きているかどうか、というところだと思っています。西会頭はよく「若者には果敢に新しいことにチャレンジして欲しい」とおっしゃっています。それが真に我々の世代の役割であると自覚して、子どもたちが帰ってきたいと思えるまちづくりに取り組んでいきます。

梶 私は青年部の活動でも、小松の女将の集まりの中でも、人の魅力を磨く、ということを意識しています。同じく飲食業の仕事をしていた母の口ぐせが「お客様は人の魅力につく」でした。自分も母と同じ仕事をするように。た今、料理が美味しいだけ、しつらいが美しいだけではだめで、本質は人だということを実感しています。

目指すのは「住む人が輝くまち」です。そこに外から自然に人が集まってくる。小松でキラキラと輝く魅力的な人を増やすことに、力を注いでいきます。

西 次代を担うお二人から力強い思いをお聞きし、率直にうれしく思います。未来を切り拓いていくのは、もちろん若い世代です。このような考えや信念を持つ方がいると、関係者に自然に伝わり魅力の向上や愛着心を高めることにつながります。そうしたことが、小松市全体をより魅力と活気にあふれたまちへしていくことにつながるのだと思います。

——小松商工会議所では、80年という歴史の中、さまざまな環境変化に立ち向かい、戦後復興や大規模災害、深刻な経済危機など極めて困難な課題も克服されてきました。そういった歴史を踏まえた現在、小松には豊かな自然環境、文化・歴史・産業の蓄積があり、企業活動においても持続的な社会を意識した活動が行われています。先人の蓄積を活かしながら、住む人が輝くまち、いつか帰ってきたいまちをつくりていくという決意が、今後の小松を担うお二人から示されたことを心強く思います。小松の方々が、白山を心に抱きながら、北陸新幹線とともに、勸進帳の「飛び六方」のように力いっぱい駆け抜けていくことが必ずできると確信しました。

商工会議所の力の源泉は、会員企業にあります。大中小のさまざまな業種業態の会員企業が参画することで組織が成り立っています。小松商工会議所はこうした多様な声を集約し、ベクトルの方向を合わせることで、中小企業の活力強化と当地経済の活性化、ひいては日本経済の成長・発展に貢献すべく活動されてきました。今後とも会員企業と共に、当地経済の新たな飛躍のため活動されることを期待しています。



【ファシリテーター】
株式会社日本政策投資銀行
北陸支店 企画調査課 課長

飯田 一之氏



小松商工会議所

The Komatsu Chamber of Commerce & Industry